

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02875

研究課題名(和文) 日韓の韓国語専攻・日本語専攻の学生が架け橋となるためのキャリア支援に関する研究

研究課題名(英文) Research on career support to build bridges between Korean and Japanese language majors in Japan and Korea

研究代表者

松崎 真日 (MATSUZAKI, Mahiru)

福岡大学・人文学部・教授

研究者番号：30709621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は2019年度から3年の計画で開始し、日本と韓国でそれぞれの言語を専攻する大学生のキャリア支援用教材を制作することを課題とした。研究内容としては、日韓の大学生を対象にアンケート調査の実施、先行研究の検討を踏まえ、ビデオ教材の制作を行った。1年目の2019年は計画通り順調に進んだが、2年目と3年目はコロナ感染症の拡大により研究の遂行が難しくなったため、2年間の延長を行ったうえで、当初計画していた研究をすべて終えた。この間に行った実績としては、学術誌に掲載された論文が4篇(すべて査読有り)、学会での口頭発表が6件である。その他、制作したビデオ教材をYouTubeで公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義として、外国語を専攻する大学生向けのキャリア支援を正面から取り上げる教材を作成したことが挙げられる。大学の専門教育は、専門的であり学術的であるがゆえに、直接学問内容と関わらない、しかしながら学生にとっては大変重要なキャリア支援について、実践レベルでも研究レベルでも十分に取上げられてこなかった。

本研究はこの課題に取り組み、誰もが使うことができる映像教材を制作し、YouTube上に無償公開を行ったことは、外国語専攻の学生のキャリア支援に研究レベルで貢献するだけでなく、研究成果を社会に還元するという社会還元の間でも意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study began as a three-year project in FY 2019, with the task of producing career support materials for university students majoring in their respective languages in Japan and Korea. Based on a questionnaire survey of university students in Japan and Korea and a review of previous studies, we determined that producing video teaching materials would be effective, and we produced video teaching materials. The first year, 2019, went on tour, but the second and third years were extended for two years because the spread of coronary infections made it difficult to conduct the study. We were able to complete the study as originally planned. During this period, four papers were published in academic journals (all peer-reviewed) and six oral presentations were made at academic conferences. In addition, video materials produced by the project were made available on YouTube.

研究分野：外国語教育学

キーワード：キャリア支援 外国語専攻 ビデオ教材 韓国語専攻 日本語専攻 外国語の活用

1. 研究開始当初の背景

企業の人材採用、大学の人材育成、就職支援において、「グローバル人材」のみならず「グローバル就活」、「グローバル採用」（日経電子版 2016.7.21）に対する注目が高まっている。これは人材採用・就職活動において、従来から国内で行うという枠組みが変わり始めていることを示すものである。他方、人材を送り出す側である大学においては、「自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」）に対する教育・支援として「キャリア教育」、「キャリア支援」が行われているが、共通教育や就職支援組織での実施に留まり、専攻での教育には広がっていない。

キャリア教育の不在は、日本における韓国語専攻、韓国における日本語専攻においても明らかである。日本における韓国語教育や韓国における日本語教育を論じた文献において、「キャリア教育」や「キャリア支援」という用語は、日韓の高等教育機関における教育内容の比較として出てくることはあっても、それぞれの言語を専攻する学生達のキャリア教育や支援にフォーカスを当てた議論がほとんど見られない。また、専攻の学生の就職や進路の実態調査、またキャリア支援に関する分析や方法についての議論もほとんど行われていない状況にある。日韓両国において、双方の言語能力や社会文化に精通した人材育成が行われ、卒業後に両地域の架け橋となりうる人材が存在するだけに、「キャリア教育」、「キャリア支援」に接続されていない現状はもったいない状態にあると考えている。

社会的には、日本と韓国間の人的交流の増大が続いている状況がみられる。韓国から日本への新規入国者数の統計（法務省入国管理局）を見ると、平成 27 年から 29 年までのデータを見ると、H27: 385 万人、H28: 491 万人、H29: 694 万人と毎年大幅に拡大しており、国別で最も多い入国者数を記録している。なお、平成 29 年度に新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定され日韓の間での人的交流は拡大基調が継続する展望である。

このような社会的状況の中で、日本において韓国語を専攻する学生、韓国において日本語を専攻する学生が日韓の架け橋として活躍していくことは大いに期待される場所である。ところが、大学においてはこのような日韓の有望な人材に対する体系的な進路支援が確立されているとは言い難い状況にある。専門教育を通じた人材育成に、その専門性の価値や期待される役割と学生自身の関係を捉えることができるキャリア教育・キャリア支援を接続することには社会的意義が存在すると大いに考えられる。

2. 研究の目的

日本と韓国は、政治・文化ともに交流の歴史が深く、日本で韓国語や韓国文化を学ぶ学生、韓国で日本語や日本文化を学ぶ学生も昔から多い。しかしながら、これらの人材が有意義に活躍するための政策や大学における体系的な進路支援が確立されているとは言い難く、そのほとんどが学生個人による自助努力に委ねられてきている現状がある。民間レベルでの相互理解とその質の向上が期待される現代社会において、その社会的要請に応えるべく、本研究では「日韓で学ぶ韓国語専攻・日本語専攻の学生が両地域の架け橋となるためのキャリア支援」をテーマとし、日韓の学術・文化交流の中心を担っている申請者が、その実態を明らかにした上で、モデルとなるカリキュラムとビデオ教材を開発する。さらに開発したこれらは誰にでも活用可能な形で公開し、日韓における人材活用の新しい幅を提供するとともに、日本および韓国に対する社会的理解にも寄与することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、これまでに行ってきた研究成果を基盤にして、以下の 4 点について明らかにする。

- 日本で韓国語や韓国文化、韓国で日本語や日本文化を学ぶ高等教育機関の学部生を中心的な調査対象とし、現在の就職活動の取り組みと進路状況の実態を個別、かつ包括的に明らかにする。専門性を生かした仕事をしている社会人を対象に、学生の専門性に対するニーズ調査を行う。
- 実態調査で明らかになった点、および社会におけるニーズ調査を併せて、大学教育と卒業後の進路としての社会が繋がるスキームを構築するため、カリキュラムの開発を行い、ビデオ教材を制作する。
- カリキュラムや教材といったコンテンツは、開発・制作を行うのみではなく、教育実践とその分析を通じて効果の実証・評価を行い、学生支援に役立てる。
- 本研究で開発・制作した支援リソースであるカリキュラムとビデオ教材は、誰にでも利用できる形でインターネット上に公開する。

4. 研究成果

研究は、実態調査として、日韓の高等教育機関で韓国語または日本語を専攻する大学生にアンケート調査を実施することから始めた。外国語に関心を持ち、専門課程で集中的に外国語を学ぶ大学生は、キャリアについては大学のキャリア専担部署が提供する情報以上のものは、一般的には持ち得ていないことが明らかになり、そのため民間企業が提供する就職情報への依存が高いこともわかった。いずれも自らの専門性に関してはサポートが薄いため、専攻の課程においてキャリア支援教育を行うことが重要であることが指摘できた。アンケート調査により、外国語を専攻する大学生の実態を浮き彫りにできたことは成果と言える。

次に、上記の実態調査の結果を受けて、教材をどのような形で制作するのが適切かについて検討を行い、先例が極めて少ないためパイロット的な教材制作になる可能性、研究者の映像教材制作の経験、制作した教材の公開の容易性、授業での導入におけるコストの面などを総合的に考慮し、ビデオ教材の制作を行うことを決定し、制作に入った。取材対象者の選定を慎重に行い、関連諸機関の撮影許可、公開許可を得たうえで、外国語を専攻し、現在その外国語を生かした仕事を行っている社会人のインタビューを収録した。さらには関連用語の紹介やナレーションの吹き込みなどを加え、ビデオ教材の制作を進めた。その過程では学会で数度の途中経過報告を行い、フィードバックを得て、最終的な形とした。本ビデオ教材は、日本語及び韓国語で視聴可能なよう全編にわたり字幕を入れており、日本のみならず韓国の教育現場においても使用可能であるという特徴がある。また、YouTube上にアップロードを行い、関心のある教員、学生、研究者が、いつでも視聴できるように無償公開している。外国語を専攻する大学生のキャリア支援という先駆的な教材であることから、多くの人々が利用することができるようにし、この種の教材および教育の発展にこうできるようにした。映像という、比較的関心をもたれやすい媒体を用いて教材を制作したこと、また日韓両言語に対応させたこの種の教材は他にはないため、本教材は独自の価値があるものになっている。

研究期間の終盤では制作したビデオ教材を授業に導入した結果についての分析研究をおこなった。この授業実践に関する研究成果の一部は、すでに学会で発表しているが、今後、追加のデータを含めて論文としてまとめる計画である。本科研費が、調査から教材制作へ、そして教材制作から授業実践へと確実に歩みを進めたことが把握できるよう、論文化する方向で作業を進めている。

本研究においては、韓国語と日本語を専攻する大学生を対象に研究を進めたが、本研究の成果はそれ以外の外国語を専攻する大学生にも十分通用するものであるといえることから、日本や韓国で様々な外国語を学ぶ大学生のキャリア支援にも広く貢献できるところが多い。このように外国語を専攻する学生に対するキャリア支援研究に先鞭をつけたという点も本研究の成果といえる。

以上のように、本研究ではキャリア支援の観点から研究を進めたが、いくつかの課題も残る。一例として、外国を専攻する学生をグローバル人材として育成するためのカリキュラムや教材の具体化は本研究では扱っていない。外国語専攻が外国語だけを学べば良い時代はすでに過去のものであることから、現在ではグローバルに活躍できる人材育成への教育への転換、または教育の拡大に必要な支援に関する研究が求められている。それについては今後の課題になるといえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Matsuzaki Mahiru, Fukuoka Univ., Isono Hideharu, Kenko Hiroaki	4. 巻 134
2. 論文標題 Production and Release of a Video Teaching Material, "Careers through Video: Japanese and Korean Students Making the Most of Their Major Languages."	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Korean Journal of Japanology	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15532/kaja.2023.02.134.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗	4. 巻 56
2. 論文標題 日韓の言語専攻学生のキャリア教育用ビデオ教材制作の背景と枠組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 183-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21808/KJJE.56.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗	4. 巻 53
2. 論文標題 日韓の日本語専攻・韓国語専攻学生の就職活動に関する認識 - キャリア支援の基礎調査 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 77-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21808/KJJE.53.05	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗	4. 巻 134
2. 論文標題 ビデオ教材『映像で学ぶキャリア - 日韓の学生が専攻言語を生かすために -』の制作と公開	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本學報	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15532/kaja.2023.02.134.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗
2. 発表標題 ビデオ教材「映像で学ぶキャリア -日韓の学生が専攻を生かすために-」の全容の報告
3. 学会等名 韓国日本研究団体第11回国際学術大会（韓国日本学会創立50周年第104回）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗
2. 発表標題 ビデオ教材「映像で学ぶキャリア -日韓の学生が専攻を生かすために-」のシナリオと制作
3. 学会等名 韓国日語教育学会 2021年度 第40回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松崎真日
2. 発表標題 日本における韓国語上級学習者のための遠隔授業 -模擬ラジオ番組制作プロジェクトを中心に-
3. 学会等名 第七屆 國立高雄大學韓國研究中心國際學術會議（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗
2. 発表標題 ビデオ教材『映像で学ぶキャリア』-日韓の学生が専攻言語を生かすために-』の制作における理論的枠組みと内容について
3. 学会等名 韓国日語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗
2. 発表標題 韓国語専攻の日本人学生の就職活動に関する認識 - 日韓の専攻学生のキャリア支援の基礎調査 -
3. 学会等名 韓国日語教育学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗
2. 発表標題 ビデオ教材『映像で学ぶキャリア -日韓の学生が専攻言語を生かすために-』の活用
3. 学会等名 韓国日語教育学会 第44回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松崎真日・磯野英治・検校裕朗
2. 発表標題 日韓の韓国語専攻・日本語専攻の学生のためのキャリア支援 -実態調査の実施とビデオ教材の開発-
3. 学会等名 朝鮮語教育学会 第93回例会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>映像で学ぶキャリア 日韓の学生が専攻言語を生かすために https://www.youtube.com/watch?v=AfxzYV1C4Fs</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	磯野 英治 (ISONO HIDEHARU) (50720083)	名古屋商科大学・国際学部・教授 (33914)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	檢校 裕朗 (KENKO HIROAKI)		極東大学校(韓国)・教授

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関